

令和 6 年 6 月 20 日現在

機関番号：32506

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2018～2023

課題番号：18H05776・19K20968

研究課題名（和文）海外の日本語教育支援の構造モデル作成のための基礎的研究

研究課題名（英文）Fundamental research for the creation of a structural model of support for Japanese language education overseas

研究代表者

工藤 理恵（Kudo, Rie）

麗澤大学・国際学部・講師

研究者番号：10822984

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題に関する成果として挙げられるのは、日本語教育支援の捉え直しへの提言である。海外の日本語教育支援の基礎研究として、歴史的な系譜を調査した結果、日本語普及、国際文化交流、国際協力等の複数の文脈からマクロな影響を受けていること、個別の現場では、各現場の背景や人材の相互作用によりミクロの文脈が形成されることが明らかになった。つまり、実践現場を、支援者・被支援者による双方向の実践行為として捉える視点の重要性が示された。さらに、同支援は独自の文脈で発展した経緯から、理念が共有されないことにより、現場での混乱が生じていた。途上地域における外国語学習における理念を掲げる重要性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、日本語教育支援の歴史的系譜を調査し複数の文脈からのマクロな影響を明らかにし、質的調査により現場でのミクロな文脈を描いた上で、マクロ・ミクロの相互作用を明らかにした点である。支援者と被支援者の双方向の実践行為として現場を捉える視点を示し、理念の共有が不可欠であることを提言した。社会的意義としては、実践現場での混乱を減らし、効果的な支援を提供する指針を示すことが挙げられる。また、支援現場のマクロな位置付けだけでなく、個別の現場でその現場の背景を捉え、人材との協働をすすめる重要性が明らかにされたことにより、支援者に具体的な指針を提供し、支援の質を向上させることが期待される。

研究成果の概要（英文）：Outcomes related to this research project include proposals for rethinking support for Japanese-language education. As a basic study of support for Japanese-language education overseas, a survey of historical genealogy revealed (1) that support is influenced macroscopically by multiple contexts, including Japanese-language promotion, international cultural exchange, and international cooperation, and (2) that at individual sites, micro contexts are formed by the interaction of background and human resources at each site. In other words, the study showed the importance of a perspective that views the field of practice as an interactive act of practice by the supporter and the supported. In addition, the support has developed in its own context, and the lack of a shared philosophy has led to confusion in the field. The importance of upholding the principles of foreign language learning in developing regions was suggested.

研究分野：日本語教育

キーワード：日本語教育 教育開発 国際協力 国際教育協力 海外の日本語教育 ケイパビリティ・アプローチ

### 1. 研究開始当初の背景

本研究は、日本語教育支援の一定の成果の認められる地域として東欧のブルガリア国を研究対象とする。ブルガリア国は1981年から2011年までの30年間、様々な形の公的な日本語教育支援を受けた国である。支援終了から約10年が経ち、現在は民間の日本語学校の活動も見られる等、新たなフェーズに入っていることが確認できる。

### 2. 研究の目的

本研究においては、当初、散見される基礎史料を収集・編纂するだけでなく、現地での関係者への聞き取り調査を実施した上でその30年に渡る支援を記録することを目的としていた。そして今日の現状調査を踏まえ、同国における日本語教育支援を総合的に分析し、海外の日本語教育支援における構造モデルを作成することを目指していた。

しかし、コロナ渦による渡航の制限のため、フィールドでの調査を行えない時期が長く続いたため、研究課題を転換することを迫られた。そして、同時期に進めていた文献調査を手掛かりに、ブルガリア国における日本語教育の一つの成功事例として記録するという本研究の前提を捉え直した上で、次のように目的をマクロ・ミクロな観点からそれぞれ設定した。

#### ■マクロな観点からの研究目的

「海外の日本語教育支援」そのものの学術的位置付け及び、歴史的位置付けが曖昧であり、特に、国際協力の文脈では特に日本語教育の存在そのものが不可視化されていることが明らかになった。そのため、日本語教育分野だけではなく国際協力・教育開発の分野など、多分野横断的に捉えた上で日本語教育支援の系譜を作成し、それが不可視化された理由を明らかにする必要がある。

#### ■ミクロな観点からの研究目的

「海外の日本語教育支援」の現場は、海外の日本語教育の教室であり、そこに何らかの支援が関わっている。日本語教育の領域では、しばしば「海外の日本語教育」とされる。それゆえ、これまでには日本語教育支援の枠組みについて現場から捉えられることもなければ、日本語教育支援の総体が検証されることもなかった。そのため、日本語教育だけではなく、日本語教育支援という全体の営みを捉える必要があると考えた。

### 3. 研究の方法

#### ■マクロな観点における目的のための研究方法

日本語教育支援を行う公的団体が公開している文書をはじめとして、国際文化交流、日本語普及など、日本語教育支援に関わる文献調査を行った。

#### ■ミクロな観点における目的のための研究方法

日本語教育支援の現場に多様な立場から長期間にわたり携わった人物を対象に、インタビュー調査を行った。インタビューの語りを質的に分析し、結果をまとめた。

### 4. 研究成果

本研究課題に関する成果として挙げられるのは、日本語教育支援の捉え直しへの提言である。海外の日本語教育支援の基礎研究として、歴史的な系譜を調査した結果、日本語普及、国際文化交流、国際協力等の複数の文脈からマクロな影響を受けていること、個別の現場では、各現場の背景や人材の相互作用によりミクロの文脈が形成されることが明らかになった。つまり、実践現場を、支援者・被支援者による双方向の実践行為として捉える視点の重要性が示された。さらに、同支援は独自の文脈で発展した経緯から、理念が共有されないことにより、現場での混乱が生じていた。途上地域における外国語学習における理念を掲揚する重要性が示唆された。

本研究の学術的意義は、日本語教育支援の歴史的系譜を調査し複数の文脈からのマクロな影響を明らかにし、質的調査により現場でのミクロな文脈を描いた上で、マクロ・ミクロの相互作用を明らかにした点である。支援者と被支援者の双方向の実践行為として現場を捉える視点を示し、理念の共有が不可欠であることを提言した。

社会的意義としては、実践現場での混乱を減らし、効果的な支援を提供する指針を示すことが挙げられる。また、支援現場のマクロな位置付けだけではなく、個別の現場でその現場の背景を捉

え、人材との協働をすすめる重要性が明らかにされたことにより、支援者に具体的な指針を提供し、支援の質を向上させることが期待される。

■今後の課題として

Education For All が叫ばれた 1990 年、開発のパラダイムが経済開発から人間開発へと大きく転換し、ケイパビリティアプローチに依拠した『人間開発報告書』の発刊がはじまった。日本語教育支援は、国際協力の文脈で行われてきたものの、言語と開発については英語のような使用人口の多い言語での研究がすすむ一方で、国際開発の言語とされない少数派の言語は研究対象とされてこなかった。人間開発において、言語教育がどのように関わるのか、すなわち言語教育は人々にどのように寄与するかは、本研究から生まれた新しい研究テーマであり、海外／国内関わらず重要なテーマである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 工藤理恵	4. 巻 58
2. 論文標題 開発途上国における日本語教育支援政策の変遷－1965年から2020年の年次報告の分析から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 フェリス女学院大学文学部	6. 最初と最後の頁 25-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 工藤理恵	4. 巻 56
2. 論文標題 日本語教育を通じた国際協力 在外大使館の語りに注目して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 フェリス女学院大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 17-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 工藤理恵
2. 発表標題 日本語教育を通じた国際協力における「日本語」の意味－マクロ・ミクロ両視点からの質的分析
3. 学会等名 早稲田大学日本語教育学会2022年秋季大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 工藤理恵
2. 発表標題 言語とケイパビリティ 日本社会 における移住者の生活世界に着目 して
3. 学会等名 言語文化教育研究学会 第9回年次大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 工藤理恵
2. 発表標題 『日本語教育を通じた国際協力』の系譜 言語政策の観点から事業年報に注目して
3. 学会等名 日本言語政策学会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関